

昭和廿年六月四日

六二 受信始 一九〇五〇三 譯丁 一四三〇 電〇〇九一〇 參作 概本〇

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

大海參一部

機密第三一〇一〇七番電

發 據兵團長

宛 尙武參謀長 通電先 威尙武豹

二十九日「ダバオ」戦記

一「ダバオ」河ヨリ「クラーク」附近ノ敵ハ昨二十八日三次ニ互リ

我方果敢ナル反撃ニ擊退サレ本日山岳地帯砲撃ノ外活發ナラズ

二「ダバオ」河左岸海岸部隊モ亦變化ナシ

三兵團ハ「ダバオ」地區陸海軍全部隊ニ對シ長期自活充足態勢ノ温

通四三四 〇一 〇一 八七八五五 KC 三二通 石川(佐藤)

6月10日 受信始 1854

19.53 09.00 14.30

電 00910 作 概 本

存強化ヲ目的トシ左記事項ヲ重ネテ命令セリ

(一) 軍需品ノ愛護節用及検査

(二) 軍需品就中糧秣ノ消費制限 (甘蔗ノ節用) ナ圖リ遺棄ノ絶無

自生産收穫ノ續行

204

昭和廿年六月四日

六一 受信二三三六
二 譯了二三〇
電〇〇七九九
作概〇

作

東京通信隊

機密第三一〇二一番電

發 三二KB指揮官

死 GK F長官

通報 大海參一部長・GF長官

一大隊少尉渡邊(コ四八一二)指揮セル肉攻班

水兵長松船(吳一補水一五四五)水兵長濱野(吳一補水一五五五)

五)水兵長北東(吳一補水一六一八)ヲ表彰セリ理由五月二

十八日第一航空基地ニ侵入、米兵ニ對シ脚發地雷及小型地

雷ヲ以テ米將校以下一〇〇名以上ヲ完全ニ爆碎全員悠々

歸還セリ

戰果ハ小隊長、沈着ナル判断ト肉攻班、剛膽ナル行爲ニ依ル

モ、ニシテ全軍ノ士氣昂揚ニ資スルトコト極メテ大ニシテ武動以特ニ

顯著ナリ。 (東通誌 GF長官通報濟)

電 00799
作概 〇
隊通信 32

958T
23.36
10.00

6月 1日 受信了
2日 受信了

5月 31日
4981

受信
訳訳

6月1日
20.46
23.25
11.30

電 00282
概本
作参

人

五三一
受信二三四六
譯始二三四五
六一
譯了二二三〇
電〇〇二八二
作本
〇

作

● 三二時根 戰時 聯合 艦隊 口
● 大海 參 一部

機密 第三一 一二三五 番電 二分ノ一

三二警備部隊 戰時 聯合 艦隊 第四八號 (三十一日 其ノ一)

戰訓 所見 長期ニ依ル 區域内 戰時 聯合 艦隊 爲ニ 後方 安全 地帯ニ 關シ

ハシ 得レバ 駐屯 後即チ 後方 安全 地帯ニ 糧食ノ 生産 食鹽ノ 確保

甘味 製造 醫藥 品ノ 蓄積 戰線ノ 進出 距離ヲ 必要ト スルモ 当地ニ 於テ

ハ 奧地ニ 海岸ヨリニ 〇料ニ 有力ナル 米系 匪賊 活動スルト 共ニ 海

軍ノ 任務 並ニ 兵力ノ 關係上之ガ 主意 不可 能ナリ 被害 狀況 殆ダ 巴才 河

左 岸 現 複 節 一 マン 本 本 下 ツ ク 一 (海 岸 ヨリ)

一 〇 五 七 本 電 二 分 一 八 七 八 五 五 〇 一 三 二 通 小 原 (小 澤)

206

5月31日 6月1日
受信了 21.30
送信了 00.19
02.06

電 00253
概本
作參

1858T

AK

六五三一
緊急

受信二〇三九〇
開始〇〇一三九〇

丁〇二〇六

電〇〇二五三

作本〇

三二根戦國海報着信益所

機密第三一一二三五番電 二分ノ二

中心トシテ之ガ確立ニ努メ着々實績ヲ為ガツツアル途申敵ヲ迎フル
ニ至ル

尙陸軍主力ガハハ河右岸轉用ノ爲兵力配備ニ大破孔ヲ生シ戰國一ケ
月ヨシテ海軍複合地區ニ對スル敵ノ砲撃戰トナリ敵ノ一部ハ我
ガ復讐内ニ至ル今ヲ復讐戰トナリ自治態勢ノ一角モ逐次危險ニ瀕シ
ツツアルハ遺憾ナリ(專茲ニ至リテハ復讐ニ渡リ長期攻守ノ大出血
ヲ強要スルト共ニ之ニ應ズル武裝ヲ講ゼントス)。
一 宣傳課註 本電二分ノ一未着

通一七〇六八 呂一ニラ一八七八五五〇(三二通與野) 道 田

6月10日
受信始了
受訳訳

17.50
20.55
10.05

電概
作功

局長					
一課長					
A	東	東	東	東	東
B	東	東	東	東	東
C	東	東	東	東	東
D	東	東	東	東	東
E	東	東	東	東	東
F	東	東	東	東	東
G	東	東	東	東	東
H	東	東	東	東	東
I	東	東	東	東	東
J	東	東	東	東	東
K	東	東	東	東	東
L	東	東	東	東	東
M	東	東	東	東	東
N	東	東	東	東	東
O	東	東	東	東	東
P	東	東	東	東	東
Q	東	東	東	東	東
R	東	東	東	東	東
S	東	東	東	東	東
T	東	東	東	東	東
U	東	東	東	東	東
V	東	東	東	東	東
W	東	東	東	東	東
X	東	東	東	東	東
Y	東	東	東	東	東
Z	東	東	東	東	東

至急

六一受信一七五〇
一譯始六〇五五

譯了二〇〇五
電〇〇八四

功績
作概〇

昭和廿年六月四日

電報 三二〇日 指探分

通報 大海參一部長 G 長分

電報 南西方面艦隊司令長分

五月三十一日少佐 荒相 (三〇二方) 長トスル 三十三教養備部隊

特設火工隊 (後藤少尉 (ホ一〇五五五) 以下四五名) 表彰

通 三〇〇

長一〇五八 (一五七一〇) 三三三

日比野 (一)

(11)

208

理由

右八昭和二十年一月編制引火薬取扱経²¹者皆無、寄集²¹部隊²¹中²¹に²¹是²¹爾²¹來²¹有²¹之²¹因²¹難²¹に²¹克²¹服²¹短²¹日²¹の²¹間²¹所²¹在²¹遊²¹休²¹火²¹工²¹兵²¹器²¹(²¹爆²¹彈²¹爆²¹雷²¹機²¹雷²¹其²¹他²¹)、²¹銃²¹力²¹他²¹に²¹始²¹に²¹急²¹造²¹爆²¹雷²¹手²¹榴²¹彈²¹、²¹燒²¹夷²¹筒²¹、²¹破²¹壤²¹筒²¹等²¹。

(東通註) 聯合船隊通報済、本電誤字多、遅延)

(電信探訪) 本電二六一二既配布)

(2)

5月10日 受信記
6月10日 信始了
23.50
04.20
07.17

電 00257
作 概績
功 績

1981

通三一

呂一ヨラ十八(七八五五四)廿二通

深見(小林)

一電信課註 本電二分ノ一未着

輕便且效果確實ニシテ甚大ナル有效兵器ヲ完成多量生産ヲ續行中ナリ
殊ニ二式爆雷改造地雷手榴彈ハ陸戦用火工兵器ノ少キ海軍陸戰部隊ヲ
シテ痛敵ニ多大ノ出血ヲ與ヘ今日ノ戦鬪ヲ不安ナク持續セシメ作戰ニ
密與スルトコロ極メテ大ニシテ功績拔群ト認ム。

機密第三一一七五番電二分ノ二



東京通信隊
三一通信隊

五六一
三二

急

三二通信隊

受信二三五〇
譯始〇四二〇〇

譯了〇七一七 電〇〇二五七

功作概績〇

人

六三 受信 二〇三六 譯丁 二三五五 電 〇一六四二

緊急 通信隊



南西方面部隊情報着信場所

機密第〇一〇二〇四番電 五分ノ一

比島戰況

DI 642 概本

電作參

20.26
22.30
23.55

「バギオ」方面「バギオ」北方一二村「アコブスブレ」附近ニ據ル
山砲一〇數門ヲ伴フ敵歩兵約五〇〇我ガ駐屯軍兵團ト對峙中ナルモ特ニ
積極的意圖ヲ形勢同方面ニ於ケル敵兵力ハ他方面ニ移動セルヤノ疑アリ
「パレテ」方面「サクサク」方面ノ敵ノ壓力極メテ大ナリトノ情報以後
情報ノ入手ヲキモ敵側放送ニ依レバ「パレテ」北方「サクタフェ」附近
ニ於テ戰鬪中ナルモノノ如シ。

信始了

30 受訳訊

6月

1898T

通信課註 本電五分ノ二三三四五既記布
一六八三 呂一〇ラ一八(五〇八五。K)

新竹航

石川(小幡)

昭和廿年六月五日

6月 3日 受信了
受信了
受信了

01.00
02.36
09.10

電 01250
作 概
参 本

1868

通二九六

寫一Bラ十八(五〇八五K)新行航空基地

筒井(渡瀬)

「從信課註 本體五分 一未着其、他既配布二」
「三三」西端面ニ反捲以後戰車ヲ伴フ敵約一〇〇〇トシテ「ア」
ニ侵入「マ」ニシテ東方海軍部隊ハ之ト交戦中我が兵器彈
藥缺乏(小銃一挺ニ付一七)捲平均肉攻兵器ナシ)ニアル
爲山地ニ據リ主トシテ斬込ニ依リ戦果拡大中。

作

急

南西方面部隊情報着信解所

機密第〇一二〇四番電

五分三

急

急

三 二 通

六三 受信了〇一〇〇 誤了〇九〇 電〇二五〇

参本 作概

昭和廿年六月四日

6A 20 受信了
 21 30 送信了
 22 35 受信了

電皇 01183
 作皇 01185
 參木

186T

通九八
 一〇五
 六四七

呂一 日 十八 (五〇八五五) 新竹空基地

林 (上野)

1

方面ニ移動中
 三「ルソン」西岸
 (1) 虎兵團ハ「サバガン」「スヨ」街道上「タクボ」「ブドツク」
 方面ノ敵米比軍(兵力約二〇〇〇)攻撃中戦況ノ進展遅々タルモ
 概ネ順當ニ經過シテリ
 (2) 「サロマキワ」「カチヤ」オ」方面ニアリシ海軍部隊及荒木旅團
 ハ四月二十日移動開始海軍部隊ハ五月二十日「セルパンテス」着



南西方面部隊情報着信艦所

機密第〇一一二〇四番

五分ノ三四五

六二 受信二〇三五 譯了二二三三五 電自〇〇一一八五 參作概本〇
 緊 魚
 三 十 一 通

昭和廿年六月四日

213

虎兵團「トコムノ」荒木旅團「ボンドツヲ」南東「バハエ」

五分ノ三未着

其ノ他情況不明ナルモ敵放送傍受ニ依レバ「イリル」及「モン
タルパン」水源地ヲ奪取セシメタルモノハ如シ

五月一日夕ヨイ夕ヨイ一島四月二日敵上陸以來米軍二〇〇〇土匪約一五〇

〇名ノ交戦中ナリシ「ボンガオ」派遣隊機員約二〇〇名ハ派遣隊

長二日戦死シ四月二十六日同地ヲ撤去「サンダガン」ニ集結セ

リ同方面ノ防備ニ充當セリ泊地所在敵艦船巡洋艦一掃海艇五輪

送船一其ノ他一〇數隻在泊中敵ハ水陸兩飛行場使用中

六ダバオ方面三二根所報ノ通

七尙武司令部五月二十一日「キアンモヨ」着

一電信課註 本電五分ノ一三未着

一東通註 本電誤字極メ多シ

01393
電 概本
作 参
23.30
12.10
14.10

998T

3日 信知了
2日 受取取

六 受信二三三〇
二 譯始一五二〇
譯一四一〇
手〇一三九三
作概〇

作
三 一 通信隊
大海参一部
機密ヲ〇二一二番番電

發 據兵團長
先 尚武參謀長

六月廿一日ハ速戰況
一 我之主陣地帯、兩翼ニ對テ敵攻撃ハ逐次激烈トナリ支々一部、
敵ハ主陣地内ニ侵透セシメ、尚右岸地区ニ於テハ更ニ外側ヨリ侵
透シ企圖シモ、如シ
二 兵團ハ敵ノ戰車隊ニ對スル能ハ勢ヲ強化スルト共ニ侵透スル敵撃
ヲ近進シツツアリ
三 〇九八止附近ニ於テ獨立歩兵中隊一六六大隊ハ軍命令ニ依リ兵團ニ
復歸セラルルコトヲ望ムル中、道沿ハ地区ヲ知ル速平起ニ前進
命セリ
道一七四 岩一五八(七八七五七)三二通 長谷川(小橋)

215

昭和廿年六月四日

昭和廿年六月五日

六三
受信二一〇六
譯始二一四五六
譯了二三〇〇
自電〇〇一六七七
航作本〇

緊急

三十一通信隊

海軍總隊

一航空艦隊F・ツゲガラオ航空基地



機密第〇二一八〇五番電 三分ノ二三三

電航
自至概本
01677
01679
0

發 南西方面艦隊參謀長

貴機密第〇一一九三二番電返

「ツゲガラオ」基地最近ノ狀況竝ニ詳細未了同基地指揮官ヲシテ報告

ヒシナルモ當方ニテ判明シアル處左ノ如シ

一附近ノ森林燒カレ飛行機ノ秘匿冠ニ困難ナルベキモ數機ノ秘匿ハ可能滑走路ノ狀況不明ナルモ敵ハ引續キ相當ノ飛行哨戒實施シアリ

能滑走路ノ狀況不明ナルモ敵ハ引續キ相當ノ飛行哨戒實施シアリ

498T
通自一六八二〇

ロ一Bラー一八(一五〇一八五〇)EG(新竹空基地)
小宮林明比(齋)

(一)

三、燃料ナシ

三、中飛行場設定隊ニケ中隊程度アリシモ現狀不明現在海軍部隊約七五

〇名アリ木工要員少キモ緊急ノ場合約四〇〇名程度ノ人員ハ出シ得
ルモノト認ム

四、來襲機來襲及通過時刻〇七〇〇乃至一六三〇一日平均通過或ハ旋回
約三〇機最大約一〇〇機來襲機數機乃至十數機最大約六〇機

五、陸軍報ニ依レバ

(イ) 附近匪賊激増シツツアリテ五月末西飛行場へ使用シテラズルハ匪
賊ノ銃砲撃圍内ニアリト情報アリ

(ロ) 「ツゲカラオ」西方三〇新「ツアオ」附近ニ敵飛行場ニケ所アリ
P-1 58 數機着陸シテアリ物資補給ニ使用中

6月3日 3日 受訊 訊

信始了

06,15
08,00
09,00

電 根 本
作 参

01246
01248

698T

一三二五〇〇
 二五〇〇四
 〇〇四
 呂一Bラ十八
 (六八二二五、五)
 三二二通
 高谷川 (岩崎)
 未光
 長谷川 (1)

三、海上方面

侵透セリ我ハ今夜半ヲ期シ全力斬込逆襲ヲ決行ス

三二警備部隊戦闘概報第五一號(六月二日)
 タバオ方面マンドツク地區主陣地一角ヲ突破セシ裝甲車七ヲ有スル
 約二個中隊ノ敵ハ道路ニ沿ヒ一七〇〇マンドツク東方一、五軒ニ

機密

行

機密第〇二二二二八番電 三分ノ一、二三

三二特根戦闘概報着信處所
 二二、二三、二六各根

緊急

六三 受信始 〇〇八〇一五

譯了〇九〇〇

電自〇〇一一二四八六

参作 本〇

昭和廿六年六月四日

(一) 〇五五魚雷艇二B1二五 八機サンオーガスデソ鬼張所砲爆撃

三四月二十日敵デゴス來冠以來本日迄ノ海軍部隊綜合戰果及被害傳戰

果人員殺傷二七五九(艦船擊沈及 破撃 = 依末確認ヲ含マズ) 擊沈驅

逐艦一掃海艇一輸送船三艦種不詳二艦破艦種不詳一飛行機擊墜二艦

破三機輕機銃一自動小銃一三小銃六五カールピン銃六五彈八七〇

ロケツト彈九手榴彈一二無線電信機二築音機一破壞又ハ炎上戰車三

裝甲車五索引車四車輛五九重砲二迫撃砲二砲一機銃一六自動小銃一二

擲彈筒四同彈藥包三〇ロケツト彈五二手榴彈一〇發火筒三〇電波探

信儀二電話機一四下ラム罐五幕舍測候所集積所三火柱四

(口被害戰死二四二行方不明一二一戰傷二四六。

(2)

6月 3日 受信了
受取 記
128T

08.00
07.20
09.10

電 報 本
作 務 航
自 至 01486
01488
0



作戦緊急

六三 受信始 〇〇七八二〇〇

了 九一〇

電自 〇〇一四八八六

航作 本 〇
昭和六年六月四日

東 通・三一 通
一一 通・〇 通

機密第〇三〇〇一五番電 三分ノ二二三

發 第三十二特別根據地隊司令官
宛 南西方面艦隊司令長官 大海參一部長 四部長 各通司令
通報 司令長官

一 敵ハ依然有力ナル部隊ヲ以テ「テブニコ」
「パナカン」第一飛行場
方面ヨリ「マンドツク」復廓陣地ニ攻撃
シ來リ我ハ左岸地區主力並
玉田大隊及南非陸戰隊ヲ以テ主陣地及A區
廓内ニ於テ火力急襲並斬込
ニ依リ之ヲ攻撃中ナル中敵ノ熾烈砲撃ノ爲
我陣地ハ逐次破壊セラレ
一 四三二
二 四四五
三 四四五
四 八四五
五 八四五
日一 日 十八(八三六七、五)二二通
林 大月(川口) (-)

6. ミレバ戦斗開始以來、1ヶ月有餘在
ダバオ海軍部隊ハ鉄石ノ團結ヲ以テ

「デブニコ」ヨリ「マンハツク」ニ向東進中ノ裝甲^{車五}ヲ有スル約五〇

〇ノ敵ハ遂ニ複廓内ニ突入我ハ之ト激戦中ナリ

三 海軍主力「第三十二特別根據地隊及南菲」空「ハ」マンドツク」北方

高地正面ノ前記複廓陣地ニ於テ低坑強靱ナル戦闘ニ依リコノ敵ヲ撃滅

セントス

三 第三十二特別根據地隊司令部ハ本三日未明「マンドツク」北方村「ク

ワボ」ニ移動セントス

四 今後ノ海軍部隊對策トシテハ一時ダバオ市北方三十軒「サリボント」

方面ニ於テ自活自戰態勢ヲ整ヘテ飽ク迄敵撃滅ニ邁進スルト共ニ將來

ハ「アグサン」河ヲ經テ「ミンダナオ」東海岸「カテール」灣方面ニ

轉進セントス

五 其ノ他「ハ」敵襲ニ依リ破壊ノ已ムニ至リ依テ通信杜絶スルコトア

ルベキモ爾後ハ短移動一ヲ以テ二十一通ニテ十通ヲ經テ東通ト連絡

六 「ミレバ」戦闘開始以來一ヶ月有餘在ダバオ海軍部隊ハ鉄石ノ團結ヲ以

テ

勇戦敢闘長久主陣地ヲ確保シテ敵ニ
多大ノ出血ヲ強要海軍ノ伝統ヲ發揮シ
ツツアリシガ不幸主陣地ノ一角剝奪シ
タルハ遺憾ニ堪ヘズ。

1873

テ勇戦敢闘長久主陣地ヲ確保シテ敵ニ多大ノ出血ヲ強要海軍ノ伝統ヲ
發揮シツツアリシガ不幸主陣地ノ一角剝奪シタルハ遺憾ニ堪ヘズ。

昭和廿年六月四日

6月5日

受課

信始

19.40

20.18

22.30

電

02631

02632

災満
戦力

1874

二七五二

二二〇十八 (五〇八五) 新竹植込地

東 (青)

軍

東 南西方面進攻部隊
 東 隊方補給部長 渡務局長
 一 パヨンボニ一所在部隊一月前進以來一マタリヤ一患者急増シ五月
 二十日調員三千名中一マタリヤ一患者九一三名(内過去二十日間
 ノ新患者六六八名)之速ノ一マタリヤ一死亡總數七〇一名ナリ(附
 近隊在ノ海軍部隊約六千及陸軍部隊を略同様ナリ)官方トシテ百
 方手段ヲ盡セテモ治療期ノ入手途付ニ努力中ナルモ其ノ量減極メテ

機密第〇四一九四〇番通 二分ノマ

二重連隊隊員十方面隊隊員・パヨンボニ運搬基地

● 東 運 一航空隊隊員

果 魚

六 五

開始二〇一八〇

丁二二三〇

〇〇二六三二

災病
力

● 三 一 通

昭和十年六月六日

電信線
第十線

増急者患ニテ少ニシテ

1875

備少ニシテ患者急増シテアキモ其患ヲ治シ得難ク左記ノ如キ患中急送ナリ

ハレ度見込至急送
一 破損鏡七〇萬個甲乙合則各五萬餘計約五〇〇〇種以上成ルベク多数
一 投下地點「エチアゲ」已ムヲ得ザレバ「ツゲガオ」事前連絡アリ度
一 投下物件「ハ」確實ニ名札ヲ附キテ度

昭和二十六年六月六日
第十號

海軍 (2)

224

昭和廿年六月七日

六六 受信一九四五 譯了二二四〇 電〇三一七〇 功概績〇

通



東通・聯合艦隊口・佐通・吳通・非島部隊各戸

機密第〇五一五〇番電

發 南西方面艦隊司令長官旗艦

通報 大臣 總長 吳人事部長 佐世保人事部長

感 狀

年

電機功績 〇三一九〇

19.45
21.10
22.40

6月6日 受信了

上等兵曹岡平美倉ノ指揮スル(海上特攻隊)右ハ昭和二十 五月十一 日〇〇三〇雷裝大發内火艇各一隻ヲ以テ折柄ノ豪雨ト嵐トヲ利用一 島一並ニ「夕日モ」泊地ニ敵艦船ヲ襲撃輸送船二隻ヲ撃沈敵ノ銳意ヲ 奪ヒ大ニ全軍ノ士氣ヲ振作セリ之細心周密ナル準備ト大膽果敢ナル行 動ニアリ一艇克ク敵ノ一船ヲ屠リ帝國海軍ノ眞價ヲ遺憾ナク發揚セル

通三三六七

呂一Bラ十八(五〇八五K)新竹航空基地

伊藤(林部)

928T

1872

モノト謂フベク誠ニ軍人ノ龜鑑ニシテ其ノ功績拔
群ナリ仍テ茲ニ感狀
ヲ授與ス

昭和二十年六月五日

南西方面艦隊司令長官 大河内傳七

226

六六 受信 〇一五五 譯了 一〇四五 電 〇二八六七 作概
譯始 一〇〇〇

⑤ ツゲカラオ航空基地

停刀

五基地航空部隊 三警備隊
機密第〇五二三二〇番電

KI? B 戦闘機報 (六月五日)

一〇六〇〇一〇六三〇夜戦一機旋回

二〇九〇〇一六〇〇P一延五機 B一三四延二機 A一三〇六

機 B一三九延六機 カウ通過

三一〇四五一一二一五 FBU一 九機 一三三〇一五四五 P一五一

二機 飛行場附近銃撃

通 二五九 呂一三 八三七八 二五九(五) 日 原(附) 一

昭和廿年六月

四 戰果 被害十

《東通註 本要關始符不明、為遲延》

(=)

(水) ~~防衛ノ確保ニ關スル~~ 附録ノ防衛確保

1881

第一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第二十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第三十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第四十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第五十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第六十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第七十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第八十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十一 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十二 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十三 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十四 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十五 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十六 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十七 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十八 海軍大臣ノ職務ニ關スル
 第九十九 陸軍大臣ノ職務ニ關スル
 第一百 海軍大臣ノ職務ニ關スル

海軍

230

作

六二 受信。四五〇。譯了。六四〇。會。五三二六。作概

菲島部隊一航空艦隊口

東通

三一 通

機密第。八一三二一。番電。二五。一

通報 大出参一部

菲島部隊電令作第一四號

一、菲島部隊兵力部署中「アバ」海軍防衛部隊ヨリ

二、ツガカラオ方面所在海軍部隊(廳)ヲ制隊

三、ツガカラオ方面所在海軍部隊(廳)ヲ以テツガカラオ海軍

防衛部隊ヲ編成 指揮官ヲ海軍大尉筒井四郎ニ指定

本職直内ナシ

電線線註 本電五二既配印二

通 八五二 呂一B六十二(四七〇五二) 方通

久保田(中隊)

昭和二十六年拾貳日

6月 11日 受信了
受信了

04.04
04.20
05.40

電 05304
作 概

888T

通五八五三 呂一Bラ十八(四七〇五KG)高雄 傳崎(土谷)

三「ツゲガラオ」海軍防衛部隊ノ任務ヲ左ノ通定ム

(1)「ツゲガラオ」基地及附近ノ防備確保(地上防衛ニ關シ當地方
兵團長ノ指揮ヲ受ク)

(2)各部隊固有任務ノ遂行

(3)配備地域内敵情ノ通報

(電信課註 本電三分ノ一未着)

作

一航空艦隊F・菲島部隊
東 通。?

秘密第〇八一二二二一番電 二分ノ二

受信
始〇〇四四二〇四

了〇五四〇 電〇五三〇四

作 概

昭和廿年六月拾貳日

6月 10日 受信了

00.55
01.20
02.05

電 04846
作概 0

188T

停

緊急

六

受信了 00.55
開始 01.20

02.05

電 04846

作概 0

昭和廿年六月拾陸日

機第〇八一六四〇番電 其二

ハナリナキ基地

三 一 通

電 HIB-AF 長官

通報 大海軍一部 G B 長官
任務ヲ左ノ通定ム

(1) 海軍防衛部隊、任務ヲ左ノ通定ム
(2) 海軍防衛部隊、任務ヲ左ノ通定ム
(3) 海軍防衛部隊、任務ヲ左ノ通定ム
(4) 海軍防衛部隊、任務ヲ左ノ通定ム

(1) 海軍防衛部隊、任務ヲ左ノ通定ム
(2) 海軍防衛部隊、任務ヲ左ノ通定ム

通 電 04846
受信了 00.55
開始 01.20
02.05

十原 (係員)

233